

# 鎌倉宋音資料——小叢林略清規——

沼 本 克 明

解説

目次

一、序

二、鎌倉宋音資料としての清規類

三、「小叢林略清規」について

一、序

鎌倉時代語の問題の一つとして、この時期に移植された宋音ソウイン（以下、江戸時代に明代中国音が移植されたものを唐音トウインと呼称し、区別することとする）の問題が有る。この宋音については、勿論既に先学によって種々の検討が加えられ、重要な研究が蓄積されて来てはいるが、なお細部にわたる問題は尽きていたとは言えないであろう。筆者も、この宋音の問題を日本漢字音史上の重要なテーマの一つとして重視し、日頃その資料の収集に少しずつ心掛けて来た。ここに複製資料として紹介しようとする「小叢林略清規」三巻一冊は、有坂秀世博士が「諷経の唐音に反映した鎌倉時代の音韻状態」（言語研究）第二号昭和十四年四月、後に「国語音韻史の研究」に所収）の中で主要資料として取挙げられ、次いで飯田利行博士が「日本に残存せる中国近世音の研究」（昭和三十年）の中でも主要資料の一つとして取扱われたものであつて、既によく

知られた資料である。その意味で本書は宋音研究の基本資料と呼べるものであると考えられるのであるが、その全体的な分析や位置づけについては殆ど研究が進んでいないと言える。本書を含めて所謂諷経資料フウケンに基いた宋音研究はなお種々の問題が残されていると考えられる。本書は活字本として既に「大正新脩大藏經第八十一巻統諸宗部十二」に収められており、その宋音の振仮名も一応翻刻して示されているが、割り書きの部分の振仮名は全て省略され、また本文漢字の濁点や合符も省略されており、振仮名自体にも誤りがかなり見出されて、このままでは利用出来ないものである(なお、「大正蔵」同巻にはもう一つの宋音資料として有効な「諸回向清規」五巻も収められているが、この資料については既に奥村三雄博士が「日本漢字音の体系」(「訓点語と訓点資料」第六輯)の中に、明暦版から抜き出された宋音の分韻表を示されており一応の利用が可能となっている)。この「小叢林略清規」は江戸の版本であるから相当数出版されたことは勿論であるが、現今の古書肆で見掛けることは殆どないようであつて、ここに宋音研究の基礎資料の一として影印紹介することも無意味ではないと考え、貴重な紙面を頂戴することとした次第である。

## 二、鎌倉宋音資料としての清規類

所謂「宋音」としての諷経音が記し留められた清規、懺法・施餓鬼類は、今日我々が直接資料として実見可能なものは殆ど全て移植後長期を経た後の江戸時代の版本乃至写本に限られていると言えそうである。少くとも従来先学によって紹介された資料は殆どそうであつたと言える。これは仏典誦誦音全てに通じて言い得る事柄であつて、呉音・漢音・新漢音においても、移植後相当期間は口誦口伝によつて伝承されたものが、後に文字に定着されて残るといふ経過を見出すことが出来そうである。(注)鎌倉宋音の場合にも、当初中国語として読誦され、漸次口誦の間に日本化しつつ、江戸時代に到つて多くの場合振仮名が加えられることになつたものと考えられる(勿論、清規、懺法等の本体そのものは江戸時代以前から成立していたものである)。所で従来取挙げられて来た清規類の主要なものとして次のような資料が有る。

「諸回向清規」五卷は、永祿九年（一五六六）に臨濟宗僧楓隱が撰述したもの。この原本に宋音の振仮名が加えられていたかどうかは不明。流布したのはその明暦三年（二六五七）刊本であり宋音が付刻されている。従来の有坂、飯田、奥村博士の研究は全てこの版によって行われている。

「増補無縁雙紙」八巻四冊は、飯田博士が主要資料の一として取挙げられたもの。臨濟曹洞両宗用の廻向等を類聚したもので、飯田博士は撰述時を室町時代一四四〇年頃とされている。原本に宋音の振仮名が加えられていたかどうか不明。流布したのは寛文七年（一六六七）刊本で、これに宋音が付刻されている。

「註永平道元禪師清規」二巻は、旧刊は凡例によれば寛文七年（一六六七）永平寺第三十代光紹禪師が上梓せしめたものでこれには宋音付刻はなく、後に寛政六年（二七九四）に玄透が重刊を上梓しこの時に宋音が付刻されこれが後世流布したものである。曹洞宗系の資料であるが宋音の付刻例は極少である。有坂・飯田博士が取挙げられている。本書は更に明治に入って古田梵仙によって増注が加えられ「増註永平元禪師清規」も上梓されており、この本は現今書肆にもままだ出ている。

「瑩山和尚清規」二巻一冊は、やはり曹洞宗系のもので、原本の成立は古く元亨四年（一三二五）にまで遡るようである。巻下の跋文によれば、其後応永三十年（一四三三）に梵清によって一度上梓された。更に延宝六年（一六七八）に大乘寺月舟により上梓、流布本はこの後の延宝九年の刊記を有する刊本と思われる。この延宝九年刊本の新刷は現今古書肆でも求められる。本書の宋音が原本成立時から加えられたものであったかどうかは不明である。なお本書の宋音付刻部分も極少である。有坂・飯田博士が取挙げられている。

右の様な清規の他にも、有坂博士は「洞上僧堂清規行法鈔五巻」（宝暦三年刊本、宝暦五年再刊）「大乘維那口伝」（写本）の書を示され、飯田博士は「廻向雙紙二巻」（大永八年以後成、写本カ）を主要資料の一として取挙げられている。

次に調経音を記載した資料として清規に準じるものに個々の儀式書の刊本が有る。有坂博士は「観音懺法」（花園校本、

大乘寺読点本、秋葉寺藏版本)「施餓鬼」(花園校本)「施食法」(永平寺藏版)「大施食」(平井文永堂藏版)「版新施餓鬼並念誦」(江戸刊本)「改正佛洞上唱礼法」(寛延四年刊)などの刊本及び陀羅尼類の刊本を多数示されている。これ等については筆者は殆ど未見であつて、ここでは有坂博士の挙げられた書名を再引用するに留まる。

右の如く、宋音資料としての清規類の江戸時代の版本は夥しい量にのぼるものであつて、これ等の活用は今後の課題となるはずであるが、そこで問題となるのは、これ等の資料群の反映した宋音自体の性格である。鎌倉時代(一一〇〇〜一三〇〇年代)に移植された時点から文字に定着された江戸時代前半期までには少くとも四〇〇〜五〇〇年の期間が経過している訳で、この間に中国音の日本化と口誦伝承に係る変化を蒙っているものであることを考慮に入れなければならぬ。また、有坂博士は、本稿で言う宋音は鎌倉時代に移植されたものがその時代に既に定着して、後世に伝承されたものという基本的な考え方に立たれたが、最近、湯沢質幸氏は、存室町時代にも五山僧の渡海は行われており五山の確立も室町時代になされたことを考慮して、禅宗の調經音の確立も室町時代になされたところがかかなり有つたのではないかとされている。これは十分成り立つ考え方であろうから、そうとすれば、江戸時代の清規類の版本の宋音は鎌倉から室町にかけて移植された中国音が重層的に重なつたものであることをも考えてみる必要が有ることにならう。以上の如き宋音自体の性格の究明は、方法的には、調經資料の相互の比較検討、調經資料と字書・韻書資料(「聚分韻略」などの単字項出資料)との比較検討、などが今後必要とならうが、別に、これ等調經資料のより古い写本群が見出されないかということである。先に示した「瑩山和尚清規」などは既に鎌倉末期に近い頃に成立していたものであつて、その頃に宋音を付した写本が有つた可能性が皆無ではないであろう。少くとも室町時代の清規類の写本は存在する。有坂博士は「観音懺法」について、その譜本は相当古くから現われているとして、かつて古書肆の目録に載つた室町時代の写本に言及されている。

この「観音懺法」については、飯田博士が「遊方伝叢書四」（大日本仏教全書）所収の「愚中及禪師年譜云。曆応四年（一三四一）秋。癸博多。冬到明州。船中水盡數日。師与同志修円通懺法。以祈雨水。密雲忽布大雨滂注。……」他計二項の記事を引用して、南北朝初期には既に成立していたことを示されている。従って、この懺法の写本はこの頃以後のものが発見される可能性があるのであるが、筆者は偶々真言宗総本山東寺の聖教調査において、室町時代の写本を見ることが出来た。真言宗の寺院で禅宗典籍を見出すのは比較的希なことであつて、本書が所蔵されるに到つた経緯等は全く不明であるが、実際に法会に利用された本であるらしく思われる。流布本の一つ、曹洞宗系の大乗寺読点本と比較してみると若干の差違が認められ、振仮名はそれ程多くないが古態を留めるものではないかと思われるので簡単に紹介してみる。

東寺観智院金剛藏第一四九函六五号として所蔵されている「観音懺法（外題）」二帖は縦一五・五糎の小折本であり、奥書類は一切存しないが紙質や仮名字体から判断して室町時代初〜中期の書写加點本である。内題、尾題は「円通妙懺」と有る。内題の次行から直ちに「一切恭敬／一心頂礼本師釈迦牟尼世尊／…」と本文が始まつており、版本に有る「大悲円満無礙神呪」は無く、又版本の内題「円通大士懺摩」の次の「南無大慈大悲広大靈感／観世音菩薩」という語句も無い。巻尾は「自皈依佛僧当願衆生 統理大衆／一切無礙 和南聖衆」で終り直ちに尾題が来ている。全巻の所々に朱書にて句切点の他に「導師」「打」「三反」「香華」「同音打」等の書き込みと墨書の宋音の振仮名が加えられている。今その振仮名を右に抜出してみると次の如くである（句中の例は前後の漢字を掲げる）。

清フツ伏フツ毒フツ害フツ 尼ホウケツ破ケツ惡ケツ業ケツ障ケツ 尼ル六ル字ル章ル句ル陀ル 各ウキ々ウキ胡ウキ跪ウキ 嚴シ持シ香シ 如シ法シ 三ハウ宝ハウ 願ス此ス 花ハ偏ハ十ハ 天セン肴セン饌セン天セン 宝イ衣イ不イ  
可コ思コ議コ妙コ 法シ塵シ（墨濁点） 塵スツ出スツ一スツ 旋セン転セン無セン礙セン互セン莊セン 悉シ有シ 皆シ悉シ遍シ 来シ際シ作シ 普キン薰キン法キン 皆ハ發ハ善ハ 生シ證シ仏シ 仏ツ土ツ中ツ  
伏シ毒シ害シ 名シ称シ 常セ説セ吉セ 救シ濟シ極シ苦シ者シ得シ解シ脱シ 亦シ遊シ戲シ地シ獄シ 或シ処シ畜シ生シ中シ 化シ作シ 生シ形シ 教シ与シ大シ 或シ処シ阿シ修シ  
軟セン無セン調セン伏セン 令シ除シ情シ慢シ習シ 疾シ至シ 有アン岸アン 手シ出シ香シ色シ乳シ 飢キ渴キ逼キ切キ者キ 得ハ飽ハ滿ハ 遊キ戲キ於キ 上シ勝シ方シ 普カ教カ一カ  
生ス死ス苦ス 安ス樂ス処ス 涅ホン槃ホン 大アン岸アン 今イ已イ貝イ楊イ枝イ淨シ水シ惟シ願シ 憐セウ憐セウ受セウ 名シ称シ救シ護シ苦シ厄シ者シ 悲ヘウ覆ヘウ一ヘウ 光ヤ明ヤ 滅ツ除ツ癡ツ

暗冥 ミンヤ 為免毒害 イメムツ 衆病 ヒンヤ 必來 ヒ 今稽首礼 キヤ 救厄者 ヤア 今自帰 ス 悲父 フア 願必定來 ヒチン 免我 アイメン 世樂 ラ 及与大 イ 得 テ  
ニヤン 念仏 ニ 当說 セ 賦摸呼圖婆賦 モ 安茶管槃 サリホン 首埤帝般 ヒチチ 婆私賦多姪他伊梨寐梨觀首梨迎波梨仗鞞端者施陀 シヤ  
リ 梨摩蹄者勒叉 キウレシヤ 薩婆薩埵薩 サホ 婆哪啤娑呵多 ヤヒヤソハコ 伽帝伽帝賦伽帝修 チヤ 婆哪啤娑訶 チヤ 所宣說 センセ 誦持此呪 シヤ 之所 シス  
ウシ 護持 ホ 免離怖畏 ホイ 刀杖毒 シヤウ 及与疾病 イツヒツヒ 無患 ワン 平復如 ヒンフ 覆護 ヘウ 重請 シユン 悲熏心 キ 承仏 シン 而說破惡業 ホア 亦救一 イフキウ  
モ 賦摸呼賦圖婆賦 チヨ 婆賦 ニヤン 阿婆熙摸呼 キモ 脂分茶梨般茶梨輪鞞帝般茶囉婆私賦休 シホンサリホンサリシユヒチ 楼 ニセシ 分茶梨兜 ホンサリチヨウレウ 楼 ニセシ 梨周 クハラウ  
クウキウ 楼 ニ 楼賦般 ニ 梨豆富 テウフホ 茶囉婆私賦矧 スニセシ 坵陟坵賦矧 ニセシ 薩婆阿婆耶羯多薩婆噯婆 サホラヤケツトサホケン 耶卑離陀門殿娑呵 ヒリトヒ 虎狼師 クラウ  
ダン 檀陀罽薩陀罽底耶婆 チヤ 耶除婆陀頗羅賦祇質毗難多喜婆 ホロキヒシヤ 阿盧祿薄鳩誓莫鳩隸兜毗隸婆 ニモホキウリスチヨヒリ 已告阿 スシヤ 四部弟子 ホフチ  
シヤ 名号并受持誦誦 カウヒン 行曠野 クワフヤ 迷失道徑 ミシシヤ 悲熏心 キ 化為人像 クワ 示其道路 シキ 安隱 ニンヨン 至獲大 ワウワイ 無余 ムヨ  
シヤ 持戒 ニヤン 念定捨持 スシヤ 皆悉貝足 シヤ 願斷除三 シヤ 懺悔 クイ 稽首皈命 キミン 愍覆護顯現道場 ヘウ 等為法 ツス 沈淪苦趣 シンリンクツ 但以 ト  
ケン 六根 スイルイ 諸罪累 キユン 障厚重 シユン 不能自利 ネンズリヤ 深自剋責 シンスケサツ 賢聖 シヤ 及未來 ヒヤ 業六根 ルケン 三毒自有 ツス 來流浪 ルウリウ 處 ス 受 ス  
シユン 形 ニ 內無患眼 スイ 外近惡 クイキン 開放逸門 カイフン 造生死業 サウス 枝條花葉 シテウ 十五有 ウユウ 輪環無際 リンワン 相續無窮 シヤウス 偶得 ニウ 犯諸 ン  
シユン 重戒 キン 輕重偏聚 シウ 多有毀犯 ト 違逆十 ウイニク 當墮阿鼻 ダトアヒ 地獄 ニウシユン 輪迴六 リンウイ 無解脫期 ヘウ 嚴淨道場 ケン 誠心 シヤウシヤウシ 不敢覆 カンヘウ  
サウケン 藏戒根 ワンテ 還得如 クケンルウ 故興隆三 クケンルウ 起護法 ウハ 越護戒 ス 起四摂心 ス 起慈忍心 ス 不更犯 イ 已犯之罪 イ 与法 イ 俱同懺 キユハ  
シユン 來際 シヤウ 得修習 シヤウ 生常處 シヤウ 佛国七 クツ 障永除 イン 絶三 セツ 成無 シユン 處空有 キク 有 ヘウ 辺 ヘウ 無極 キク 海中 シユ 悔發願 ハハ  
シユン 或處畜生 フツス 中 シユン 手出香色乳 シウ 楊枝淨水 シヤウ 口即閉塞 ケウシヒシス ……  
シユン 右の様な違いの理由については一々について詳しく検討する必要があるが、ともかくも右の様な差を有している部分

東寺蔵の室町時代写本の振仮名は以上であるが、中に所々江戸版本と異なる部分がある。例えば次の様な部分である。

右側が本書。

が存することは、江戸時代のこの種の資料の版本の問題点の一面を物語るものである。

今後この種の清規類の古写本の発見は十分期待出来るはずであり、そういうものを同時に活用しながら、量的に優れている清規類の版本は大いに活用されねばならないと考える。

### 三、「小叢林略清規」について

「小叢林略清規」三巻は、臨濟宗花園妙心寺の龍華院の第二世無著道忠（一六五三—一七四四）の撰述である。<sup>(注3)</sup>江戸時代の禅宗を代表する学僧であり著書も多数残している。撰述時は序文に有る如く貞享元年（一六八四）三十三歳の時である。序文中に「適会<sub>ニ</sub>法兄<sub>ニ</sub>董<sub>ニ</sub>周<sub>ニ</sub>之聚福<sub>ニ</sub>発軼<sub>ニ</sub>之日祝<sub>ニ</sub>余<sub>ニ</sub>造<sub>ニ</sub>小清規<sub>ニ</sub>且謂<sub>ニ</sub>巨叢席<sub>ニ</sub>之礼楽<sub>ニ</sub>牛刀耳矣割<sub>ニ</sub>雞者採<sub>ニ</sub>之則未<sub>ニ</sub>識<sub>ニ</sub>所<sub>ニ</sub>以下<sub>ニ</sub>手也<sub>ニ</sub>…遂折<sub>ニ</sub>衷<sub>ニ</sub>小利<sub>ニ</sub>所<sub>ニ</sub>宜<sub>ニ</sub>行者<sub>ニ</sub>名曰<sub>ニ</sub>小叢林略清規<sub>ニ</sub>と有つて、適々某法兄が周防国の聚福寺に住職として赴任する際に顧われて、地方の小利に向く様に本山の清規を折衷して簡便な清規として纏められたものであることが知られる。

扱、以下に影印する版本は、青地表紙袋綴装（縦二六・〇糎、横一六・五糎）、外題は「小叢林畧清規 全」と墨書されている。内題は無く第一丁表より直ちに序文が始まっている。序文の末に「貞享改元甲子臘月書于洛西照氷之室」と有り、その後に「徯忠」「無著」の二箇の方印が刷り込まれている。<sup>(注4)</sup>その次に「目次」が七丁、「例言」二丁有つて、次下に巻上（全十八丁）、巻中（五十五丁）、巻下（廻向）二十七丁、「図式」二十三丁）が収められている。刊記は何処にも見出されない。巻末にあたる巻下「図式」の二十三丁裏の余白に墨書にて「<sup>洛陽</sup>花園養徳藏書／明治三庚午立秋日大將軍／本屋某ヨリ保錢十穴ニテ求之」という書入れが有る。

宋音資料として紹介するのが目的である為に、宋音が付刻されている部分のみを中心に影印に付した。即ち、序文、巻中一丁裏—二丁表、巻中五丁裏、巻中八丁裏—九丁表、巻下一丁表—二十七丁裏、である。

なお本書には、付刻された原本の仮名以外に、僅かながら墨書の仮名が加えられているので、以下にそれを示しておく。併せて付刻仮名の不鮮明なものや虫損したものを示しておく。

墨書仮名：迦カ(下三オ5)、彌ミ(下三オ6)、菩ホ(下三ウ5)、祖ソ(下三ウ5)、濟ザイ(下三ウ8)、穴ケツ(下三ウ9)、首ス(下三ウ9)、省セ(下三ウ9)、順ン(下五ウ6)、昭シャウ(下五ウ6)、仁ニ(下五ウ6)、列レイ(下五ウ7)、顯ケン(下五ウ8)、没ムツ(下十九ウ2)

不鮮明仮名：施シ主ス(中一ウ9)、齊シイ資ス(中九オ1)、海シュ衆シユ(下一ウ2)、第ダイ一イ(下二オ7)、清シン衆シウ(下四ウ2)、解アイ制シ(下四ウ6)、方ニ隅ニ(下六オ3)、願ゲン望モウ(下六オ4)、臨リン濟シイ(下六ウ1)、增ズン壽ジュ(下八オ8)、伏フ願ゲン(下ハウ9)、於イ滄サウ海カイ(下九ウ6)、一イ部ブ(下十ウ9)、祈キ禱タウ(下十一ウ4)、種シュウ智シ(下十二オ1)、北ホ野ヤ(下十三オ4)、陰イン陽ヤウ(下十四ウ1)、罰ホ惡ア(中十四ウ1)、虔ケン備ビ(下十五ウ2)、所ス鳩キウ(下十九オ2)、出シュ没モ(下十九ウ2) 以上

(注1)：吳音・漢音・新漢音についての説語資料の場合については、拙著「日本漢字音の歴史」(昭和六一年)において少しく言及している。

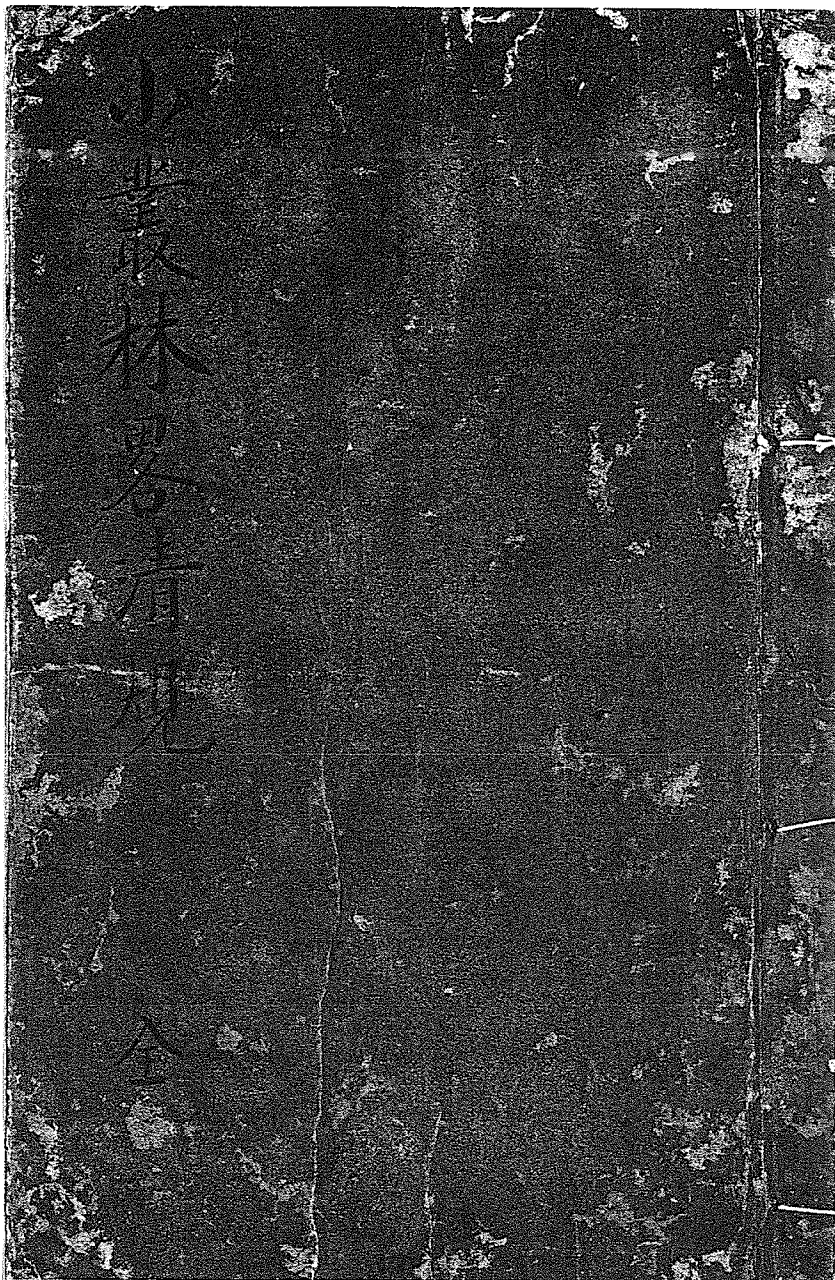
(注2)：「唐音小考」(佐伯梅友博士喜寿記念国語学論集)(昭和五一年)参照。

(注3)：無著道忠については、飯田利行博士に「学聖無著道忠」という專書が有る(但し筆者未見)。その他禅宗の概説書にも必ず言及されており、全てそれ等にゆずる。

(注4)：有坂博士前引論文で使用された刊本には、この部分に「龍華蔵版」と記されてあるという。とすれば本書とは版が違うものであろうか。詳細は未詳である。



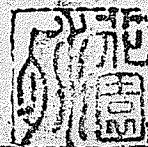
(表紙)



鎌倉宋音資料

一九七

自叙ス小叢林畧清規ニ



法嶠比丘道忠撰

余自リ幼幸得ニ濫下廁ニ華園籬末ニ目  
擊ス貧婆盛規復躬ア都肄ユ茅菴之  
裏ニ焉迫テ緊テ帛ヲ艸鞋ヲ滌シ指ヲ五味ニ百  
城老宿以其自リ上國來ラ為ラ孰爛ト

于威儀進止遂折節下問彼混  
茫者鹵莽者余繁乏背記每恐  
所答謬漏卻益他傷焉因欲作  
一小冊便於酬問也適會泐兄  
董周之聚福發輒之日祝余造  
小清規且謂巨叢席之禮樂牛

刀耳<sup>ノミ</sup>矣割<sup>ク</sup>雞<sup>ヲ</sup>者採<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>則未<sup>レ</sup>識<sup>ル</sup>所  
以<sup>テ</sup>下<sup>ニ</sup>手<sup>ヲ</sup>也余笑<sup>テ</sup>曰<sup>ク</sup>非<sup>ニ</sup>特<sup>ニ</sup>拜<sup>ス</sup>兄<sup>ニ</sup>之  
命<sup>ヲ</sup>亦吾<sup>カ</sup>素蓄<sup>シ</sup>也遂折<sup>ニ</sup>衷<sup>ニ</sup>小刹<sup>ノ</sup>所  
宜<sup>ク</sup>行<sup>フ</sup>者名<sup>ケテ</sup>曰<sup>フ</sup>小叢<sup>ニ</sup>林略<sup>ク</sup>清規<sup>ト</sup>釐<sup>シ</sup>  
之<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>四<sup>ト</sup>一<sup>ニ</sup>通用<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>日分<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>月分<sup>ニ</sup>  
四<sup>ニ</sup>臨時<sup>ニ</sup>所謂<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>壞<sup>セ</sup>舊<sup>ノ</sup>坊<sup>ヲ</sup>而止<sup>ム</sup>敗<sup>ル</sup>

水<sup>ラ</sup>者<sup>レ</sup>也<sup>、</sup>或<sup>ハ</sup>覽<sup>テ</sup>焉<sup>、</sup>曰<sup>、</sup>不<sup>レ</sup>遣<sup>シ</sup>鑿<sup>シ</sup>玄<sup>ヲ</sup>從<sup>ニ</sup>  
 事<sup>セ</sup>斯<sup>レ</sup>際<sup>ニ</sup>我<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>其<sup>レ</sup>道<sup>ヲ</sup>炳<sup>ニ</sup>焉<sup>乎</sup>天<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup>  
 也<sup>、</sup>且<sup>ツ</sup>觀<sup>ニ</sup>我<sup>カ</sup>家<sup>ノ</sup>祖<sup>ヲ</sup>笏<sup>ヲ</sup>室<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>長<sup>ク</sup>物<sup>ノ</sup>終<sup>ス</sup>  
 日<sup>ニ</sup>坐<sup>シ</sup>兀<sup>ク</sup>而<sup>シ</sup>棒<sup>ヲ</sup>喝<sup>ス</sup>交<sup>シ</sup>馳<sup>ス</sup>是<sup>レ</sup>已<sup>シ</sup>豈<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>  
 折<sup>リ</sup>旋<sup>シ</sup>俯<sup>シ</sup>仰<sup>シ</sup>為<sup>シ</sup>念<sup>ト</sup>哉<sup>、</sup>余<sup>カ</sup>曰<sup>ク</sup>噫<sup>、</sup>子<sup>モ</sup>亦<sup>、</sup>  
 與<sup>ニ</sup>杜<sup>ノ</sup>宥<sup>ノ</sup>之<sup>、</sup>遯<sup>シ</sup>辭<sup>ニ</sup>耶<sup>カ</sup>汝<sup>ニ</sup>有<sup>シ</sup>家<sup>ノ</sup>祖<sup>ノ</sup>之<sup>、</sup>

棒喝一卽恕<sub>チ</sub>汝<sub>ニ</sub>之<sub>カ</sub>卓犖<sub>ニ</sub>銜轡<sub>ク</sub>之<sub>テ</sub>表<sub>ニ</sub>  
也若<sub>レ</sub>當<sub>ニ</sub>我<sub>カ</sub>問<sub>一</sub>頭<sub>ニ</sub>拈<sub>一</sub>起<sub>テ</sub>輒<sub>チ</sub>打<sub>チ</sub>振<sub>レ</sub>威<sub>ヲ</sub>  
吐<sub>レ</sub>臭<sub>ヲ</sub>底<sub>マ</sub>則<sub>レ</sub>未<sub>タ</sub>妨<sub>ケ</sub>刺<sub>ニ</sub>腦<sub>ヲ</sub>於<sub>レ</sub>此<sub>ヲ</sub>用<sub>一</sub>子<sub>ス</sub>  
上<sub>ニ</sub>學<sub>ニ</sub>趙<sub>ニ</sub>步<sub>ヲ</sub>畫<sub>ニ</sub>葫<sub>ヲ</sub>蘆<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>免<sub>ニ</sub>得<sub>テ</sub>傍<sub>ヲ</sub>觀<sub>一</sub>  
醜<sub>一</sub>陋<sub>ヲ</sub>焉<sub>一</sub>或<sub>ス</sub>復<sub>ク</sub>曰<sub>ク</sub>睹<sub>ニ</sub>子<sub>カ</sub>之<sub>レ</sub>此<sub>ヲ</sub>編<sub>ニ</sub>其<sub>ヲ</sub>  
灑<sub>レ</sub>灑<sub>レ</sub>然<sub>ト</sub>而<sub>シテ</sub>象<sub>ヲ</sub>喋<sub>レ</sub>喋<sub>レ</sub>然<sub>ト</sub>而<sub>シテ</sub>叙<sub>レ</sub>述<sub>レ</sub>者<sub>ス</sub>

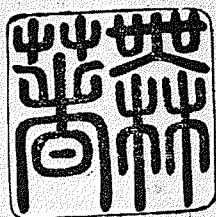
皆是吾人常禮而不足以論大方。余曰：門派振古參遊，惟貴未遑事叢規也。遽爾條篋束腰，鉏斧在掌，所謂住持事繁，不得觀光本嶠。或遇老學，亦位貌拘束而不果問。其混茫者，鹵莽者，固

吾人常禮也然猶髑髏終守村  
野之態我欲諭斯人矣不敢望  
老成準前艷購也若夫大叢林  
清規自有別本若人謂此書大  
簡不足取則請別求焉然而二  
子之言能發揮我底蘊并筆爲



之序カト

貞享改元甲子臘月書于洛西  
照冰之室



右列坐ス 師佛前燒香三拜就位 引請闍梨引得

度人佛前燒香三拜到師前燒香三拜長跪合掌ス

師立テ衆同立ツ師秉爐ヲ白ク云フ

戒香定香カ慧香イ解脫香ア解脫ト知見レ香ク光明シ雲シ臺イ

遍ニ法界ハ供養キ十方ヨ無量ブ佛フ十方ハ無量ハ法ハ十方ハ無

量ス僧見ス聞ズ普フ熏シ證シ寂滅シ一切ノ衆生ハ亦シ如シ是シ即チ將ク

今キ晨シ剃頭シ受戒シ開啓ス功德ヲ先願シ

皇帝ヲ萬歲シ臣シ統ズ千秋天ノ下ニ太平キ法ハ輪常轉ス伽藍ヲ

土地ツ增益ズ威イ光ク護ク法ハ護ク人ハ無ク諸難事ヲ十方ハ施ス主ス

(中一ウ)

福慧莊嚴合道場。人身心安樂師長。父母道業。

超隆剃頭沙彌修行無障三途八難咸脫苦輪。

九有四生俱登覺岸。仰憑大眾念。

清淨法身毘盧遮那佛。圓滿報身盧遮那佛。

千百億化身釋迦牟尼佛。當來下生彌勒尊佛。

十方三世一切諸佛。大聖文殊師利菩薩。

大行普賢菩薩。大悲觀世音菩薩。

諸尊菩薩摩訶薩。摩訶般若波羅蜜。

十佛名了。師坐衆復坐。師又曰。

大徳一心念。我其此鉢多羅。應量器。今受持。常用故。

三、說了沙彌措鉢盂起立三拜了。又胡跪合掌。次授三歸五戒。師即云、

汝既出家。當先受三歸五戒。我今為汝名請。三寶證明佛事。

兼爐三請云、

一心奉請。無邊佛寶。海藏經文。十地三賢。五果。四向。同垂感降。共作證明。

沽酒。六、不說四衆過罪。七、不自讚毀他。八、不慳

貪法財。九、不瞋恚。十、不誹謗三寶。從今身至佛

身汝能持不沙彌能持一不巴

上來十重淨戒從今身至佛身汝能持不沙彌

能持師是事如是持鳴尺

沙彌起三拜初收具轉佛前三拜次師前三拜了問

訊出師及沙彌禮佛鳴磬三合掌誦處世界梵云

處世界如虛空如蓮花不著水。

心清淨超於彼。誓首禮無上尊。

上來剃頭受戒功德。四恩總報。三有齊資法界。  
 有情同圓種智。十方三世一切諸佛諸尊菩薩。  
 摩訶薩摩訶般若波羅蜜。十方已下鳴磬。  
 師起佛前三拜散場。

○相看茶禮

古規曰諸禮中賓主相見禮最為重。諸山名勝大方。  
 專使講茶禮。方丈東南室北壁掛祖像香臺上爐。  
 知客引賓到住持即出立對室外主賓相揖。東主  
西向  
 西賓東揖。乃相偶入到南北分中止對坐。若主高德則  
賓下一位坐

(中九才)

小叢林畧清規卷下

○三時回向

仰惟三寶

咸賜證知

上來看誦觀音普門品經大悲圓滿無礙神咒消災

妙吉祥神咒 金剛般若波羅密經 大乘妙典 般若

隨誦陀羅尼 經 佛頂尊勝陀羅尼 所集功德回向 真

如實際常住三寶果海無量聖賢 祝獻 護法列

位諸天仙眾守護伽藍合堂真宰 日本國內大小

福德一切補祇先願 皇風永扇 帝道 康寧 佛日

增輝ゾウキ法輪ハツリン常轉ジョウテン專祈センキ保佑ホウゴ大檀那ダイタンナ信力シンリキ彌堅ミケン善根ゼン  
 增長ゾウジョウ一切願望イツケツガンボウ皆悉ケツシツ圓成エンジョウ更莫ミヤク院山インサン門鎮モンジン靜海ジョウカイ衆咸シュウケン  
 安修アンシュ行有慶進コウユウケイジン道無ドウム魔般マパン般若ハンガ智以チイ現前ゲンゼン菩提ボジ心而不シンニシテ  
 退四タイシ恩總オンソウ報三ホウサン有徧ユヘン資法シハフ界合ケイカフ情同ジョウドウ圓種エンジュ智チ十方ジツブツ  
 三世サンセ一切諸佛イツケツシュツブツ諸尊シュツソウ菩薩ボサツ摩訶マカ薩摩サクマ訶薩カサク摩訶マカ般若ハンガ波羅ハラ蜜ミツ

○念經ネンキョウ祖師ソシ通回ツウカイ向キョウ

仰真ウヘマコト真慈マコトニシ俯フシ垂シ昭シヨウ鑑カン

上來ジョウライ諷誦フウソウ大悲ダイヒ圓滿マンエン無礙ムガイ神呪シネウ所集ショウシツ殊勲シュウコン奉為ホウガ前住ゼンジュ  
 妙心ミョウシン基名キナ和尚ウソウ大禪ダイゼン師真シマコト慈增ニシゾウ崇品ソウヒン位イ十方ジツブツ云云



有禪師號者舉禪師號不名前住妙心教諭某禪師大和尚真慈

增崇品位生前賜號改教諭為特國師倣之

國師者稱上酬慈蔭前住妙心教諭某國師大和尚上酬慈蔭

縱非國師亦某寺院開山或嗣法師其徒眾須

稱上酬慈蔭若其諷經之場名勝諸老相臨食

則國師外不得稱焉

前堂者妙心禪上一座某禪師真慈增崇品位

○念經亡者通曲向亡僧通

仰莫三寶 俯垂昭鑑

上來諷誦大悲圓滿無礙神咒所集功德奉為其名

靈位莊嚴報地十方云

亡僧者改靈位為靈覺一

○獻粥飯祖師通回向

上來獻粥飯虔備香饅茶湯諷誦經所集殊勲奉為其名真

慈增崇品位十方云

○獻粥飯亡者通回向

上來獻粥飯虔備香饅茶湯諷誦經所集功德奉為其名靈

位莊嚴報地十方云

○ 迦代傳法佛祖名號

毘婆尸佛

尸棄佛

毘舍浮佛

拘留孫佛

拘那含牟尼佛

迦葉佛

釋迦牟尼佛

摩訶迦葉尊者

阿難尊者

商那和修尊者

優波鞠多尊者

提多迦尊者

彌遮迦尊者

婆須密尊者

佛陀難提尊者

伏駄密多尊者

脅尊者

富那夜奢尊者

馬鳴尊者

迦毘摩羅尊者

龍樹尊者

迦那提婆尊者

羅睺羅多尊者

僧伽難提尊者

伽耶舍多尊者

鳩摩羅多尊者

闍夜多尊者

婆修盤頭尊者

摩拏羅尊者

鶴勒那尊者

師子尊者

婆舍斯多尊者

不如密多尊者

般若多羅尊者

菩提達磨大師

慧可大祖禪師

僧璨鑑智禪師

道信大醫禪師

弘忍大滿禪師

慧能大鑒禪師

南嶽懷讓禪師

馬祖道一禪師

百丈懷海禪師

黃檗希運禪師

臨濟義玄禪師

興化存獎禪師

南院慧顛禪師

風穴延沼禪師

首山省念禪師

(下三ウ)

汾陽善昭禪師 石霜楚圓禪師 楊岐方會禪師

白雲守端禪師 五祖法演禪師 圓悟克勤禪師

虎丘紹隆禪師 應菴曇華禪師 密菴咸傑禪師

松源崇嶽禪師 運菴普巖禪師 虛堂智愚禪師

南浦紹明禪師 宗峰妙超禪師 關山慧玄禪師

授翁宗弼禪師 無因宗因禪師 日峯宗舜禪師

義天玄承禪師 雲江宗浚禪師 已下次第唱到其嗣法師

○祝聖回向

巍巍金相堂堂覺皇 三界獨尊萬靈歸仰

且望 續解 冬年

翌 結解 冬

大<sup>ダイ</sup>日<sup>ニチ</sup>本<sup>ホン</sup>國<sup>クニ</sup>某<sup>ナニ</sup>州<sup>シユ</sup>某<sup>ナニ</sup>郡<sup>クニ</sup>某<sup>ナニ</sup>山<sup>ヤマ</sup>某<sup>ナニ</sup>寺<sup>テ</sup>住<sup>ヂ</sup>持<sup>ヂ</sup>傳<sup>デン</sup>法<sup>ポフ</sup>沙<sup>サ</sup>門<sup>モン</sup>某<sup>ナニ</sup>諱<sup>シ</sup>

月<sup>ゲ</sup>旦<sup>ダ</sup>令<sup>リ</sup>辰<sup>チン</sup>謹<sup>マシ</sup>集<sup>シ</sup>合<sup>ア</sup>山<sup>セ</sup>清<sup>シ</sup>衆<sup>シュウ</sup>恭<sup>キヤウ</sup>趨<sup>ス</sup>大<sup>ダイ</sup>佛<sup>ブツ</sup>寶<sup>ホウ</sup>殿<sup>テン</sup>

諷<sup>フウ</sup>誦<sup>ソ</sup>秘<sup>ヒ</sup>章<sup>シヤウ</sup>所<sup>ス</sup>集<sup>シ</sup>鴻<sup>フウ</sup>因<sup>イン</sup>端<sup>タン</sup>為<sup>イ</sup>祝<sup>シユ</sup>延<sup>エン</sup>今<sup>イマ</sup>上<sup>ウヘ</sup>皇<sup>クニ</sup>帝<sup>テイ</sup>聖<sup>セイ</sup>

壽<sup>シユ</sup>萬<sup>マン</sup>安<sup>アン</sup>金<sup>キン</sup>剛<sup>コウ</sup>無<sup>ム</sup>量<sup>リヤウ</sup>壽<sup>シユ</sup>佛<sup>ブツ</sup>仁<sup>ニ</sup>王<sup>オウ</sup>菩<sup>ブツ</sup>薩<sup>サツ</sup>摩<sup>マ</sup>訶<sup>カ</sup>薩<sup>サツ</sup>摩<sup>マ</sup>訶<sup>カ</sup>般<sup>ハン</sup>

若<sup>ジヤク</sup>波<sup>ハ</sup>羅<sup>ラ</sup>蜜<sup>ミ</sup>

朔<sup>シヤク</sup>日<sup>ニチ</sup>望<sup>バウ</sup>月<sup>ゲツ</sup>十五<sup>ジユウ</sup>日<sup>ニチ</sup>望<sup>バウ</sup>朔<sup>シヤク</sup>結<sup>ケツ</sup>夏<sup>ゲ</sup>解<sup>ゲ</sup>夏<sup>ゲ</sup>冬<sup>トウ</sup>至<sup>シ</sup>書<sup>シヤク</sup>正<sup>テイ</sup>月<sup>ゲツ</sup>

朔<sup>シヤク</sup>日<sup>ニチ</sup>改<sup>カイ</sup>

○祖塔諷經回向

仰莫真慈

俯垂昭鑑

(下四ウ)

山門伏フ值ダ月ゲ望シ令リ辰シ虔備香キ華燈シ燭シ茶湯サ之儀ス

以イ伸シ供養キヨウ仍シ集ル現ア前カ比ヒ丘キ眾シ就ス于イ某カ塔タ下ア同シ音シ

諷誦フ大佛頂フ萬行マン首楞シュ嚴神エン咒所シ集殊シ勛奉シ為ス

某名カ真慈マ增崇ゾウ崇品シユ位シ伏願フ覆蔭フ後昆門コ風永フ扇シ

十方シ云ク

結解冬年四節改ク月旦ツ為ス某節名例祝聖知而

其前晚諷經令辰下加ス預ル於テ

不レ赴カ其塔者改就于塔下為ス真前シ

○土地堂諷經回向

○神功浩浩聖德昭昭。凡有禱祈必蒙感應。

仰冀聖聰。俯垂昭鑒。

某門每遇斯辰。謹集合山清衆肅詣靈祠。諷誦。

大佛頂萬行首楞嚴神咒消災妙吉祥神咒所鳩

善利祝獻。梵天帝釋四大天王天界列位一切

聖衆。當山土地護法祠山正順昭顯崇仁威德聖

列大帝大權修理菩薩掌符判官感應使者守護伽

藍合堂真宰。日本顯化伊勢太神宮。八幡大菩薩

薩賀茂下上大明神。平野大明神。稻荷大明



神。春日大明神。祇園牛頭天王。北野天滿太

自在天神。大小福德一切神祇行災主病十方明

靈。修造方隅禁忌神將所奠。其門鎮靜中外咸

安。大檀那願望皆足現前下衆進道無魔。十方

云云

○祖師堂諷經回向

仰冀真慈 俯垂昭鑑。

其門每遇斯辰。謹集合山比丘衆同音諷誦。

大佛頂萬行首楞嚴神咒所集殊勛奉為初祖菩

四  
十八

提達磨圓覺大師大和尚。百丈大智禪師。臨濟  
 慧照禪師。開山其名上酬慈蔭。歷代祖師各增  
 品位。十方云

○火德諷經回向

仰冀靈明 俯垂昭鑑。

某門每遇斯辰。謹集合山清衆同音。諷誦  
 佛頂萬行首楞嚴神咒。消災妙吉祥神咒。所鳩善利  
 回嚴南方火德星君火部星衆所冀。某門鎮靜  
 火災不興海衆安寧魔事無擾。十方云

(下六ウ)

(下七才)

○韋馱天諷經回向

仰冀尊夫

俯垂昭鑑

某門每遇斯辰。謹集合山清衆肅詣靈祠。諷誦。

大佛頂萬行首楞嚴神咒消災妙吉祥神咒所集

殊勲奉爲。三洲護法韋馱尊天厨司監齋使者守

護井竈一切明靈主管田園諸大神將所祈。某門

鎮靜厨庫安寧食輪法輪兩俱運轉世事佛事一等

圓融十方云云

○普菴諷經回向

○靈妙如如圓通大虛。造化萬物不礙方隅。

仰冀真慈 俯垂昭鑑。

某門每遇斯辰。謹集合山比丘眾同音諷誦。

大佛頂萬行首楞嚴神咒消災妙吉祥神咒所集殊

勲奉為。普菴寂感妙濟真覺昭貺大德慧慶禪師

會下八萬火首金剛無數天龍八部聖眾祝獻修

造方隅禁忌神將所冀。某門修造動作無虞檀信

歸崇諸緣吉利。十方云云

○鎮守諷經回向

廿七

(下七ウ)

神功浩浩神德昭昭凡有禱祈必蒙感應。

仰冀聖聰 俯垂昭鑑。

某門每遇斯辰晚謹集合山清衆肅詣靈廟祠諷誦。

大佛頂萬行首楞嚴神咒消災妙吉祥神咒所鳩北

善利仰贊。當山鎮守某神號春日大明神北

野天滿大自在天神。各各大小眷屬先願。皇風

永扇帝道遐昌佛日增輝法輪常轉次冀。大檀那

增福增壽無災無難專祈。某門鎮靜中外咸安檀

信歸崇諸緣吉利現前一衆進道無魔法界群生同

圓種智。十方云

○祖師忌，日向

寶明空海湛死生漩復之波。

太寂定門融今古去來之相。

仰冀真慈 俯垂昭鑑。

某門今月某日 伏植 前往妙心 某名 和尚大禪

師示寂之辰。虔備香華燈燭茶菓珍饈以伸供養。

仍謹集現前比丘眾同音 諷誦。大悲圓滿無礙

神咒所集殊勛奉為 真慈增崇品位伏願。慧炬

重輝耀祖室光明之種靈根再尊回少林花木之春

十方云

祖師名位等式如記通回向

宿忌示寂之辰下加預於茶菓珍饈為茶湯之儀除

同音兩字

五十年忌已上稱五十年忌之辰等自其已前

都稱示寂之辰

○亡者忌回向亡僧通用

淨極光通達寂照含虛空

却來觀世間猶如夢中事。

仰冀三寶 俯垂昭鑑。

某門今月某日 伏值 某名 月忌之辰 虔備

香華燈燭茶菓珍饈以伸供養 謹集 現前 清眾同

音 諷誦 大悲圓滿無礙神咒所集功德奉為。

靈位莊嚴報地伏願 處生死流驪珠獨耀於滄海

踞涅槃岸桂輪孤朗於碧天普導世間同登覺路。

十方 云云

亡僧者改靈位為覺



宿忌<sup>ス</sup>忌<sup>ス</sup>之辰<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>加<sup>ス</sup>類<sup>於</sup>於<sup>ス</sup>斯<sup>晚</sup>茶菓珍饈<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>茶湯<sup>除</sup>除<sup>同</sup>

兩字<sup>ヲ</sup>

每月忌日<sup>ニ</sup>稱<sup>ス</sup>肝<sup>忌</sup>之辰<sup>ニ</sup>每年忌日<sup>ニ</sup>稱<sup>ス</sup>年<sup>忌</sup>之辰<sup>ニ</sup>

亡者<sup>ヲ</sup>七<sup>日</sup>及<sup>ニ</sup>年<sup>忌</sup>不用<sup>ス</sup>無<sup>義</sup>異<sup>名</sup>如<sup>喪</sup>儀<sup>通</sup>

辯<sup>中</sup>辯<sup>旁</sup>

死<sup>之</sup>明<sup>日</sup>小<sup>歛</sup>之<sup>辰</sup>歛<sup>忌</sup>

初<sup>七</sup>日<sup>初</sup>七<sup>日</sup>忌<sup>之</sup>辰

三<sup>七</sup>日<sup>三</sup>七<sup>日</sup>忌<sup>之</sup>辰

五<sup>七</sup>日<sup>五</sup>七<sup>日</sup>忌<sup>之</sup>辰

第<sup>三</sup>日<sup>大</sup>歛<sup>忌</sup>

二<sup>七</sup>日<sup>二</sup>七<sup>日</sup>忌<sup>之</sup>辰

四<sup>七</sup>日<sup>四</sup>七<sup>日</sup>忌<sup>之</sup>辰

六<sup>七</sup>日<sup>六</sup>七<sup>日</sup>忌<sup>之</sup>辰

七七日 盡七日 忌之辰

一百日 忌之辰

死之明年 小祥 忌之辰

第三年 大祥 忌之辰

第七年 七周忌 忌之辰

十三年 忌之辰

十七年 忌之辰

二十三年 忌之辰

二十五年 忌之辰

二十七年 忌之辰

三十三年 忌之辰

五十年 忌之辰

百年 忌之辰

若先修諸佛事則列舉之忌之辰之下其懺法

懺ツツ一ツツ座ツツ施食ツツ開ツツ甘ツツ露ツツ頓ツツ寫ツツ疾ツツ書ツツ一ツツ部ツツ建ツツ塔ツツ婆ツツ

日 到 昇 晋

造位木淨  
圖一基

○修正回向

仰惟三寶 咸賜證知

某 門伏值 三陽交泰之辰 上來現前清衆看閱

大般若波羅蜜多經觀音普門品大悲圓滿無礙神

咒消災 妙吉祥神咒所鳩善利回向 真如實際常

住三寶果海聖賢 祝獻 護法列位諸天仙衆守

護伽藍合堂真宰 今年歲分主執陰陽權衡造化

賞善罰惡 一切聰明 南方 火德星君 火部聖衆般

若會ニ上ニ十六善神。今上ト皇帝本命ニ元辰ニ吉ト凶ト星斗ト  
 堂頭ト和尚ト本命ニ元辰ニ大檀那ト建生ト星斗ト現前ト  
 一衆ト各各ト本命ニ元辰ニ吉ト凶ト照臨ト乾象ト總ト日本ト國內ト  
 大小福徳一切神祇修造方隅禁忌神將盡祈禱會  
 上無邊靈貺伏願佛運延洪法輪常轉皇基鞏  
 固仁澤普霑五穀豐登萬民和樂國土昇平災難消  
 除專祈堂頭和尚道體堅固法臘彌高。大檀那  
 道業純真家門吉利次莫其門鎮靜火盜潛消  
 現前一衆修行有慶進道無魔般若智以現前菩提

心而不退シ四恩ス總報シ三有ス徧資ハ法界ノ群生ニ同團シ種智ニ

十方云

○修正滿散回向

大日本國其州其山其寺住持比丘其諱。茲者伏

值元正ケ啓祚ス四序ニ循環シ之初ス。謹集合ア山院清衆自正ス

月初一日ニ逐日ニ看閱ス大般若波羅蜜多經觀音普門ノ

品大悲圓滿無礙神呪消災妙吉祥神呪今當滿散

同音諷誦。大佛頂萬行首楞嚴神呪消災妙吉祥

神呪所集功德回向。佛果菩提。本師釋迦如來。

大聖文殊師利菩薩 大行普賢菩薩 次伸祝

貢。 犬功德尊夫 犬辯才尊夫 犬梵尊夫 帝

釋尊天。 東方持國天王 南方增長天王 西方

廣自天王 北方多聞天王 堅牢地神尊天 韋

駄尊天 摩利支尊天。 日月兩宮天子 天界列

位一切聖衆 地界水界大小明靈。 今年歲分主

執陰陽權衡造化賞善罰惡 一切聰明。 南方火德

星君 火部聖衆。 今上皇帝本命元辰 犬檀那某

支干 當生本命元辰。 現前一衆各各本命元辰吉

星斗シビ。日本國ニッポン伊勢イセ太神宮タカミヤ。八幡ハチマン大菩薩オホハツサツ。賀カ

茂モ下ア上ノ大明神オホミヤコ。松尾マツオ大明神オホミヤコ。平野ヒラノ大明神オホミヤコ。稻イナ

荷ノ大明神オホミヤコ。春日カスガ大明神オホミヤコ。日吉ヒギ山王ヤマウヂ。祇園ギエン牛頭ウシクサ

天王テンノウ。北野キタノ天アメ滿ミツ大オホ自ミ在ミ天神アマノカミ。御靈ミタマ心ココロ所トコロ大明神オホミヤコ。

總ソウ日本國ニッポン內ウチ大オホ小コ福フク德トク一切イツゼツ神カミ祇ニ當タカ坊ボウ此ココ境サカイ旺ワカ化カ

靈レイ神カミ厨ツク司シ監カン齋サイ使シ者ノ主ヌシ湯ユ火ヒ神カミ祇ニ。修シユ造ゾウ方ハタチ隅クマ禁キン忌キ

神カミ將マシ盡シツ祈イハヒ禱イハヒ會カイ上ノ無ム邊ヘ靈レイ貺カヒ憑ヒキ茲ココ善ニ利リ普フ用ヨウ即ソコ嚴ケン導ドウ

願ガン。革カク故コ鼎テイ新シン以ヨリ往ムカヒ風フウ調テウ雨アメ順ジュン國クニ泰タイ民ミン安アン衆シュウ中チュウ無ム兵ヘイ

革カク之シ憂ウ天アメ下ノ免メ疫イ病ビョウ之シ厄ヤク次ジ祈イハヒ。其ソノ門カド鎮チン靜ジヤウ海カイ衆シュウ咸ケン

至九月十六日

安大檀那家門吉利善根增長災禍不生三有因恩均蒙利益者。十方云云

○善月祈禱回向

佛恩廣大法力宏深天道昭昭神功浩浩

仰冀佛天俯垂昭鑑

大日本國某州某山某寺住持比丘某諱。所伸情

旨上達聖聰。今月今日開啟禳災集福道場看閱

大般若波羅蜜多經觀音普門品大悲圓滿無礙神

咒消災妙吉祥神咒就座滿散。虔備香華燈燭茶

(下十三ウ)



湯之儀以伸供養諷誦。大佛頂萬行首楞嚴神咒  
 消災<sup>災</sup> 妙吉祥神咒所集功德回向。真如實際莊嚴  
 無上佛果菩提十方常住三寶果海聖賢。本師釋  
 迦如來<sup>キヤシ</sup> 東方藥師如來<sup>トウホウヤクシヤス</sup> 西方無量壽佛<sup>セイホウムリヤウジユ</sup> 當來  
 下生彌勒尊佛<sup>アヒミミリソフ</sup> 大聖文殊師利菩薩<sup>トウセイモンジュシリササ</sup> 大行普賢<sup>トウコウフケン</sup>  
 菩薩<sup>ササ</sup> 大悲觀世音菩薩<sup>トウヒカンセオンササ</sup> 虚空藏菩薩<sup>キヤクウザウササ</sup> 地藏願  
 王菩薩<sup>オウササ</sup> 大聖不動明王<sup>トウセイフドウメイオウ</sup> 愛染明王<sup>アイゼンメイオウ</sup> 西天東土  
 歷代祖師<sup>リキダイソス</sup> 開山<sup>クワイサン</sup> 國師<sup>クニシ</sup> 大和尚<sup>トウオウ</sup> 祝貢<sup>シュククワン</sup> 護法<sup>ゴホフ</sup> 十八尊  
 天 天界列位一切仙衆地界水界一切明靈。三

界應禱聖聰十方無極玄造。今年歲分主執陰陽

權衡造化賞善罰惡一切聰明。般若會上十六善

神南方火德星君火部聖衆。今上皇帝本命元

辰。犬禰那本命元辰。現前一衆各各本命元辰

吉凶星斗。日本國伊勢太神宮。八幡太菩薩。

賀茂下上大明神。松尾大明神。平野大明神。

稻荷大明神。春日大明神。日吉山王。祓園牛

頭天王。熊野三所大權現。愛宕四所大權現

北野天ホヤ滿モ犬自在天神。御靈八所大明神。今宮

二月十五

大明神。總日本國內大小福德一切神祇盡祈禱

會上無邊靈貳憑茲善利普用回嚴伏願。天下安

全干戈不起專祈。其門鎮靜中外咸安火盜潛消

諸莊田園如意豐稔檀信歸崇諸緣吉利現前清衆

一切願望皆悉圓成上報四恩下資三有法界群生

同圓種智。十方云云

○佛涅槃忌聞向

大圓滿覺應迹西乾。心包大虛量周沙界。

仰冀真慈。俯垂昭鑑。

某門今月十五日ジツタジ 伏値 本師スレキ釋迦キ如來ニ大和フ尚シ

入般ジ涅槃ホ子ホ之辰ニシ 虔備ケンロ香華燈燭茶菓珍饈シシ以伸供

養 謹集合山比丘衆同音 諷誦 大佛頂萬行

首楞嚴神呪所集殊勛シニ上酬慈蔭伏願 如在ニ靈山シ

莫忘モ四衆シラス不離フ寶座リ普化ホクゾ十方フ六道タ群生シ同圓シ種智ニ

十方云云

○佛誕生會即向

大圓滿覺應迹西乾 心包太虛量周沙界

仰莫真慈 俯垂昭鑒

八月

(下十五ウ)

十五 胃

某門今月初八日伏值本師釋迦如來大和尚

聖誕之辰。虔備香華燈燭茶菓珍饈以伸供養。

謹集合山現前比丘眾同音諷誦。大佛頂萬行首楞

嚴神咒所集殊勛上酬慈蔭伏願。憫昏昏之群類

照以毫光拔蠢蠢之四生證茲妙果。十方云云

○結制諷經回向

妙湛總持不動尊。首楞嚴王世希有。

銷我億劫顛倒想。不歷僧祇獲法身。

佛功德海。難盡讚揚。

某門今月十五日

伏植如來聖制之辰

虔備

香華燈燭以伸供養

謹集

合山 毘前比丘衆

諷誦

大佛頂萬行首楞嚴神咒所集功勳回向

真如實

際莊嚴無上佛果菩提祝獻

天界列位護法諸天

地界水界大小明靈三界應禱聖聰十方無極玄造

今年歲分主執陰陽權衡造化賞善罰惡一切聰

明南方火德星君火部聖衆

大檀那本命元辰

吉凶星斗現前一眾本命元辰福祿壽星日本國

伊勢大神宮八幡大菩薩等盡日本國內大小福

德一切神祇。修造方隅禁忌神將盡祈禱會上無

邊靈貺仗茲功勳普伸回巖先願。佛運延洪法輪

常轉皇基鞏固仁澤普滋五穀豐登萬民和樂國土

昇平干戈永息專奠。某門鎮靜中外咸安現前一

眾進道無魔般若智以現前菩提心而不退四恩總

報三有徧資法界群生同圓種智。十方云云

○施食畧回向

上來稱揚聖號課持秘咒諷誦。大悲圓滿無礙神

咒所集功德奉為。三界萬靈十方至聖伏願。資

薦<sup>シ</sup>各<sup>カ</sup>人<sup>シ</sup>多<sup>ト</sup>生<sup>ト</sup>父<sup>サ</sup>女<sup>ブ</sup>歷<sup>モ</sup>劫<sup>リ</sup>冤<sup>ケ</sup>親<sup>テ</sup>一<sup>シ</sup>切<sup>シ</sup>幽<sup>イ</sup>靈<sup>キ</sup>河<sup>シ</sup>沙<sup>シ</sup>餓<sup>ラ</sup>鬼<sup>サ</sup>咸<sup>ゴ</sup>  
出<sup>シ</sup>迷<sup>ミ</sup>衢<sup>ク</sup>同<sup>ジ</sup>登<sup>テ</sup>覺<sup>カ</sup>路<sup>ル</sup>。 十<sup>シ</sup>方<sup>フ</sup>云<sup>ク</sup>云<sup>ク</sup>

○解制諷經回向

妙湛總持不動尊 首楞嚴王世希有。

銷我億劫顛倒想 不歷僧祇獲法身。

佛功德海 難盡讚揚。

某門自四月十五日就于寶殿啟建楞嚴勝會一夏  
九旬逐日諷誦無上神咒今當解制之辰 虔備香  
華燈燭以伸滿散之儀諷誦。 大佛頂萬行首楞嚴



神呪所集功勳回向。真如實際莊嚴無上佛果菩提。十方常住三寶果海無量聖賢現座道場大聖文殊師利菩薩祝貢。護法列位諸天仙衆南方火德星君。本部聖衆。今年歲分主執陰陽權衡造化賞善罰惡一切聰明。守護伽藍合堂真宰。日本顯化伊勢太神宮。八幡太菩薩等大小福德一切神祇。修造方隅禁忌神將行災。主病一切靈明。山林界相守護百靈雨師風伯大小靈神普用資熏同垂保護專祈。某門昌盛法運紹隆萬難不生諸

七月十五

緣得利。掌頭和尚住山。安帖。蓮衆安和。合山清衆。修行有慶。進道無魔。般若智以現前。菩提心而不退。四恩總報。三有徧資。法界有情。同圓種智。十方云云。

○孟蘭盆會回向

佛身充滿於法界。普現一切群生前。

隨緣赴感。靡不周而常處此菩提座。

仰冀洪慈。俯垂昭鑒。

某門今月十五日乃衲子自恣之辰。是孟蘭盆救苦之日。嚴備六味妙供。謹集現前清衆。稱揚聖號。

課持秘咒コチヒヒ今當滿散イマタミツクサ同音ドウオン 諷誦フウジュ 大佛頂萬行首

楞嚴神咒レイガンシム所ス九善利クニシヨリ仰讚オウサン 十方常住ジッパウヂョウヂョ三寶果海サンボクノカイ無

量聖賢リョウセイケン 祝獻シユケン 護法列位ゴフハレイ諸天仙衆シヨテンシヨウ地界水界大

小明靈シヨウメイレイ 總ソウ日本國內一切明靈ニッポンノクニノイツクメイレイ一切權現イツクケンゲン三界萬

靈十方至聖レイジッパウシヨウシヨウ 憑ヒキ茲善利普用回嚴ココニシヨリフツヨウクワイケン 次莫ツギナシ 盡ツクシ祠ス

堂ドウ內各各靈位ノウチノオノオノレイ 同受法味ドウジウホフミ以護佛祖イゴホフゾフ之化門ノカド各增オノオノカサ

威光イカウ而除シテ國家クニノミヤ之災障ノシガイ 專祈センキ 寶薦ホウセン各人多生オノオノタニオホシ父

母モ歷劫冤親レキケツエンシン一切幽靈イツクウレイ河沙カサ餓鬼ガキ咸出迷衢ケンシュツミキ同登覺ドウトウキョク

路ロ 十方ジッパウ 云云ウンウン

十月

○達磨忌回向

淨法界身本無出沒。大悲願力示有去來。

仰冀真慈。俯垂昭鑑。

某門今月初五日。伏值初祖菩提達磨圓覺太

師大和尚示寂之辰。虔備香華燈燭茶菓珍羞以

伸供養。仍集合山比丘衆同音諷誦。大佛頂

萬行首楞嚴神呪所集殊勲上酬慈蔭伏願不捨

悲心憫三界六凡之衆再來末世現一花五葉之春

十方云云

(下十九ウ)

青  
八日

宿忘示寂之辰，下加預於斯晚，茶菓珍羞為茶湯之儀，除

同音兩字

○佛成道，回向

大圓滿覺應迹西乾，心包太虛量周沙界。

仰冀真慈 俯垂昭鑑。

某 門レ今月初八日 伏レ植 本師釋迦如來大和尚

成道之辰。虔備香華燈燭茶菓珍羞以伸供養。

謹集令山比丘眾同音 諷誦。大佛頂萬行首楞

嚴神咒所集殊勳上酬慈蔭伏願。色レ空明暗咸宣

微妙法音蠢動合靈共證智慧德相十方云

○寺院佛像安座點眼諷經回向  
佛身充滿於法界普現一切群生前  
隨緣赴感靡不周而常處此菩提座

仰冀真慈 俯垂昭鑑

大日本國 某州 某郡 某山 某寺住持比丘 某諱 爰

抽悃志命工奉雕刻 某佛名 尊容 消取 年号支干

月日 今辰 安座點眼讚揚佛事以充本寺永遠供

養之次 虔備香華燈燭茶菓珍饈以伸供養 謹

集現前比丘眾同音。諷誦。大佛頂萬行首楞嚴  
 神咒所集功勛回向。真如實際莊嚴無上佛果菩  
 提伏願。天眼遙觀金光恒照通靈顯應亘萬古而  
 恒然福壽康寧界十方而不替次莫。其門鎮靜中  
 外咸安檀信歸崇諸緣吉利。現前一眾進道無魔法  
 界有情同圓種智。十方云云

○在家佛像點眼諷經回向

佛身充滿於法界。普現一切群生前。  
 隨緣赴感靡不周。而常處此菩提座。

仰莫真慈 俯垂昭鑑。

大日本國其州其郡居注奉三寶弟子功德主其諱。

爰抽悃志命工奉雕刻其佛名尊容。消取年号

支千月日令辰。拜請其寺名堂頭和尚安座點眼

讚揚佛事之次。虔備香華燈燭茶菓珍羞以伸供

養。謹集現前清眾同音諷誦。大佛頂萬行首

楞嚴神咒所集功勳回向。真如實際莊嚴無上佛

果菩提伏願。覺樹恒春慈光普照舒妙相于刹摩

之內現金身于法界之中。拯群品而共證真常提萬

(下二十一ウ)



彙イジ而シ齊シ登カ覺カ岸カ更カ奠キ。家門鎮靜キ災障シ不シ侵シ吉キ祥キ。

集レ一切願望皆悉圓成シ內魔外魔都無惱亂シ現世安シ。

穩シ後世善處シ。十方云云。

○疾病祈禱百座諷經回向

總持シ獨妙藥能療眾シ惑病シ。

亦如天甘露服者常安樂シ。

仰惟三寶咸賜證知。

今キ月ケ吉ト日シ良辰開建道場現前清眾シ諷誦大佛

頂ト葛行首楞嚴無上神咒シ即ス時ニ滿散所集功德シ回

向。真如實際十方常住三寶果海無量聖賢。東  
 方藥師瑠璃光如來。日光菩薩。月光菩薩。十  
 二大神將。各各大小諸眷屬等。大慈悲父廣大  
 靈感觀世音菩薩。楞嚴會上四菩薩次伸祝獻。  
 梵天帝釋四大天王。大聖摩利支尊夫。護法十  
 八尊夫三界應禱靈祇十方滿空真宰。今年歲分  
 主執陰陽權衡造化賞善罰惡一切聰明。當年流  
 疫行病鬼主諸宿曜等。當生病人支干本命元辰  
 福祿壽星。現前清衆各各本命元辰吉凶星斗

日本國伊勢太神宮 八幡大菩薩 賀茂下上大

明神 松尾大明神 平野大明神 稻荷大明神

春日大明神 熊野三所大權現 祇園牛頭天

王八王子 日吉山王 北野天滿大自在天神

當境旺化諸大權現諸大明神 各宮侍衛神祇合

堂真宰。 盡祈禱會上無邊靈貺 憑茲善利普用

回巖專祈。 其人支干 身宮安泰 疾病頓除起居輕

利增福增壽吉祥如意不退菩提四恩三有均被善

功法界衆生同圓種智。 十方云云

災難祈禱除<sub>六</sub>嘆佛及<sub>六</sub>當年<sub>六</sub>流<sub>六</sub>疫<sub>六</sub>又去<sub>六</sub>疾<sub>六</sub>病<sub>六</sub>頓<sub>六</sub>除<sub>六</sub>宿耀等<sub>六</sub>起居<sub>六</sub>輕<sub>六</sub>利

○水陸會回向

佛身充滿於法界 普現一切群生前

隨緣赴感靡不周 而常處此菩提座

仰莫<sub>之</sub>洪慈 俯垂<sub>之</sub>昭鑑

某門今月 某日 伏值 某名 某忌之辰 嚴備

六種<sub>ル</sub>妙<sub>シ</sub>供<sub>ト</sub> 謹集<sub>シ</sub>現<sub>レ</sub>前<sub>ニ</sub>清<sub>シ</sub>衆<sub>ヲ</sub>稱<sub>シ</sub>揚<sub>ス</sub> 聖號<sub>ヲ</sub>課<sub>シ</sub>持<sub>シ</sub>秘<sub>シ</sub>呪<sub>シ</sub>今

當滿<sub>タ</sub>散<sub>ラ</sub>同<sub>シ</sub>音<sub>ト</sub> 諷誦<sub>ス</sub> 大悲<sub>ヲ</sub>圓<sub>シ</sub>滿<sub>ス</sub> 無礙<sub>ヲ</sub>神<sub>ヲ</sub>呪<sub>シ</sub>所<sub>ニ</sub>鳩<sub>シ</sub>善

利<sub>ヲ</sub>仰<sub>シ</sub>讚<sub>ス</sub> 十方<sub>ニ</sub>常<sub>シ</sub>住<sub>ス</sub> 三寶<sub>ヲ</sub>果<sub>ヲ</sub>海<sub>ニ</sub>無<sub>シ</sub>量<sub>シ</sub>聖<sub>ヲ</sub>賢<sub>ヲ</sub> 祝<sub>シ</sub>獻<sub>ス</sub>

(下二十三ウ)

護法列位諸天仙眾地界水界大小明靈。總日本

國內一切明靈一切權現三界萬靈十方至聖。憑

茲善緣普用回嚴。次冀。同受法味以護佛祖之

化門各增威光而除國家之災障。專祈。某名靈

位莊嚴報地伏願。資薦各人多生父母歷劫冤親

一切幽靈河沙餓鬼咸出迷衢同登覺路。十方云云

○尊宿入龕念誦 并回向

切以冥權妙密示化迹於人天至性圓明契玄機於

佛祖共惟堂頭和尚皦然智月光收萬頃之波允矣

悲心。式副十方之感。瞻顏無地。披志有歸。是集真徒。  
 讚揚聖號。為如上緣念。乃唱十佛名次。上來念誦諷  
 經功德奉為堂頭和尚無生報地。妙極莊嚴。十方云云

○尊宿遷化當夜念誦

白大衆堂頭和尚。已歸真寂。衆失所依。但念無常。慎  
 勿放逸。為如上緣念。乃唱十佛名次。大  
 悲死回向同前。

○尊宿龕前念誦 并回向

白大衆堂頭和尚。入般涅槃。是日已過。命亦隨滅。如  
 少水魚。斯有何樂。衆等當勤精進。如救頭然。但念無

常慎勿放逸。恭哀大衆。肅詣龕幃。誦持萬德。洪名奉

為增崇。品位仰憑。大衆念。乃唱十佛名。次上來念。誦

諷經功德。奉為新示寂堂頭和尚。伏願不忘願力。再

現曇花棹。慈航於生死。逝波接群迷。於菩提彼岸。再

勞大衆念。十方云云

○尊宿起龕念誦

金棺自舉。遶拘尸之。大城。幢旛搖空。赴茶毘之盛禮。

仰憑大衆。稱念洪名。用表攀違。上資覺路。念乃唱十

全身入塔。則茶毘為難。

○尊宿山頭念誦 并四向

是日即有新示寂堂頭和尚化緣既畢遽返真常靈  
 棺遍遠於拘尸性火自焚於此日仰憑大衆資助覺  
 靈南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀佛三念上  
 來稱揚聖號恭贊化儀體格先宗峻機不容於佛祖  
 用開後學悲心仍攝於人天救幻化之百骸入火光  
 之三昧茶傾三奠香爇一爐頂戴奉行和南聖衆次  
 悲兜四上來念誦諷經功德奉為堂頭和尚茶毘之  
 向云云

次增崇品位十方云云

(下二十五ウ)



○尊宿全身入塔念誦 并二回向

切セ以イ雙サ跌フ示シ相シ。紹シ靈リ鷲シ之シ遺レ規キ。隻セ履リ顯シ宗シ表シ少キ林ク之シ

垂レ範シ全シ機キ隱シ顯シ盛シ法ハ始シ終シ。仰シ憑シ大シ衆シ。資シ助シ覺シ靈シ。南シ無シ

西シ方シ極シ樂シ世シ界シ大シ慈シ大シ悲シ阿シ彌シ陀シ佛シ。三念上シ來シ稱シ揚シ

聖シ號シ。資シ助シ往シ生シ惟シ願シ慧シ鏡シ無シ邊シ慈シ雲シ廣シ布シ四シ生シ界シ內シ

示シ不シ生シ不シ滅シ之シ因シ六シ趣シ道シ中シ說シ無シ我シ無シ人シ之シ法シ。茶シ願シ

三シ寶シ香シ爇シ一シ爐シ。頂シ戴シ奉シ行シ。和シ南シ聖シ衆シ。次大悲咒上シ來シ

念シ誦シ諷シ經シ功シ德シ奉シ為シ。堂シ頭シ和シ尚シ難シ提シ之シ次シ增シ崇シ品シ位シ。

十方 云云

○亡僧龕前念誦

并四向  
在家通用

切以生死交謝寒暑迭遷其來也電擊長空其去也

波停大海是日即有新圓寂某名上坐生緣既盡大

夢俄遷了諸行之無常以寂滅而為樂恭哀大衆肅

詣龕幃誦諸聖之鴻名薦清魂於覺路仰憑大衆念

乃唱十佛名次上來念誦諷經功德奉為新圓寂某

大悲咒回向云上坐覺靈伏願神超淨域業誅塵勞蓮開上品之

華佛授一生之記再勞大衆念十方云

在家則新圓寂某上坐改新物故某禪定尼等覺靈

改靈位

○亡僧起龕念誦在家通用

欲舉靈龕赴茶毘之盛禮。仰憑大衆誦諸聖之洪名。

用表攀違上資覺路念乃唱十佛名

掩壙則茶毘改掩壙

○亡僧山頭念誦并回向  
在家通用

是日即有新圓寂某名上坐。既隨緣而順寂。乃依法

以茶毘焚百年弘道之身入一路涅槃之徑。仰憑尊

衆資助。覺靈南無西方極樂世界大慈大悲阿彌陀

佛フツ佛ニ名ニ上シ來リ稱シ揚グ聖シ號ス資ス助ズ往イ生ク惟イ願ヒ慧イ鏡キョウ分ン趣ヒ眞シ  
 風フウ散サン彩サイ菩ブ提テイ園エン裡リ開カ敷シ覺カク意イ之シ花ハ法ハフ性セイ海カイ中チュウ蕩ドウ條ジョウ塵ジン  
 心シン之シ垢コウ茶チャ傾キョウ三サン貧ヒン香キヤウ熱ネツ一イツ爐ロ奉ホウ送ソウ雲ウン程ジョウ和ワ南ナン聖セイ衆シュウ大ダイ  
 悲ヒ咒ジュ回クワイ上シ來リ念ニ誦ソウ諷フウ經キヤウ功コウ德トク奉ホウ為ニ新シン圓エン寂ジツ某カ名ニ上シ坐ザ  
 向コウ云クニ茶チャ毘ヒ之シ次ジ莊シヤウ嚴エン報ホウ地ヂ十シユ方フ云クニ

在家ノ則シテ新シン圓エン寂ジツ某カ上シ坐ザ改カク新シン物モノ故コ某カ禪ゼン等ト願ニ寂ジツ  
 改カク遊ユウ弘コウ道ドウ改カク化カ覺カク靈リョウ改カク位イ茶チャ之シ次ジ改カク之シ次ジ  
 掩エン壙コウ則シテ茶チャ毘ヒ焚ハン改カク壙コウ茶チャ毘ヒ之シ次ジ改カク之シ次ジ